

令和4年度津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 議事録

日時：令和4年7月20日（水）

午後1時30分から

場所：市役所5階 第1委員会室

【配付資料】

次第

- 資料1 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿
- 資料2 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱
- 資料3 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況資料
- 資料4 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の関連事業（令和4年度）
- 参考資料 第5次津島市総合計画の概要版

開会

市長挨拶

（市長）

本市では、人口減少、少子高齢化などの様々な問題に立ち向かうために、市の実情に応じた目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた地方版総合戦略「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第1期を平成27年度に、第2期を令和3年度に策定し、事業を戦略的かつ効果的に展開してきた。

本日は、第2期総合戦略の進捗状況に対する評価検証の最初の会議となり、忌憚のない意見等をいただきたい。

委員の皆様には、津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に協力いただきたい。

委員の紹介・委員長の紹介

各委員の紹介、三浦委員長の紹介

副委員長の指名

山本委員を副委員長に指名

出席状況の報告

資料確認

議題 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

（委員長）

さきほど委員の紹介があったように、多様な方々で構成されている委員会である。本日は様々な角度から意見交換や議論ができればと思っている。

本委員会では、急速な人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域を創生していくために、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国の長期ビジョン及び総合戦略を踏まえ、津島市の実情に応じた目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進するために設置されている。

本日は、第2期の総合戦略としては、進捗状況に対する最初の評価検証の会議である。これから事務局の説明に入るが、戦略ごとに説明をして、その後、戦略ごとに委員から意見・質問等をいただきたい。

事務局より説明（資料3・4）

（人口動向と戦略1・子どもを産み育てやすい環境をつくる）

（委員長）

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

（委員）

本市は早い段階から小中学校に1人1台のタブレットが配備されて、私は教育委員として各小中学校を訪問して、授業の様子を見ている。子どもたちは、特に怖がることなくスムーズにタブレットの操作をしている。先生の尽力もあったと思うが、早い段階からスムーズに導入して授業で有効活用できていることは素晴らしいと思った。

また、全国初の導入規模の人型ロボットによるプログラミング学習について、プログラミング学習がまた一つ上にステップアップできることは、子どもたちにとって、すごくいい経験になると思う。是非、上手く進めてほしいと感じる。

（事務局）

子育て世代を本市に呼び込むためには、子育て世代の支援の充実と教育に特徴を持たせることが重要だと考えている。そのような中で、1人1台のタブレットの配備、人型ロボットによるプログラミング学習を進めていくほかに、資料3の2ページのNo.9の「地方創生子どもの体力向上事業」、No.10、17の「デジタル田園ロボット・ブロックプログラミング教育事業」、No.11の「地域学校協働本部及びコミュニティ・スクールの推進」、No.12の「領事館交流プロジェクト・国際理解教育事業」、No.16の「地方創生子どもの読解力向上事業」など、地域住民の力をいただきながら、特徴のある教育施策を進めることによって、子育て世代を呼び込んでいこうと考えている。

（市長）

これからはデジタル、プログラミングの時代になると考えている。そのため、小さい時からデジタル、プログラミングを楽しく身につけることができるかが鍵である。子どもたちが楽しそうに遊びながらロボットやプログラミングを使って学習し

ていたのをテレビ見た。これを大規模に津島市に取り込めないだろうかということで、今回全国初の規模で実施することとなった。津島市に定住・移住すると、楽しく将来役立つプログラミング学習ができ、これからの時代を生き抜く子どもたちが来てくれるのではという思いで本事業を生み出した。

(委員)

デジタル田園ロボット・ブロックプログラミング教育事業で人型ロボット等を放課後子ども教室でも活用することについて、資料3の3ページのKPIの放課後子ども教室利用者参加満足度の実績値が68%で、放課後子ども教室に携わっている者として、満足度が低いと感じる。コロナ禍で開校日数の制限があったことが一番大きな理由かと思うが、そういう中で保護者や子どもの希望があって放課後子ども教室に人型ロボット等の導入を決めたのか、その導入の理由を教えてください。

(事務局)

さきほど委員が言われたように、コロナの影響で十分に放課後子ども教室の開催ができなかったために満足度につながらなかったと考える。

(市長)

放課後子ども教室に人型ロボットを導入しようと思ったきっかけは、高台寺小学校区の放課後子ども教室のプログラムの中で、ロボットを組み立てるブロックが子どもたちに人気であり、また、放課後子ども教室であれば学校の授業よりももう少しリラックスして楽しく遊べるのではないかということで本格的に導入することとなった。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

事務局より説明（資料3・4）

(戦略2・まちの活力を高め、人の流れをつくる)

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

資料4の6ページについて、インフラ整備補助金が令和4年度に5社分予定、企業立地促進補助金が4社分予定と書いてあるが、これはインフラ整備補助金と企業立地促進補助金は同時に利用していいのか。また、補助金以外の支援が他にあれば教えてください。

(事務局)

インフラ整備補助金と企業立地促進補助金の条件等に該当すれば両方申請できる。ただ、企業立地促進補助金は、固定資産税の納付が発生してからの補助金であり、インフラ整備補助金は、工場等の新設に伴って例えば道路や水路の新設の工事を行った場合の補助金である。1つの企業が2つの補助金を受けることは要件を満たせば可能だが、固定資産税は工場等を新設して翌年度に税金が課税されることとなるので、同じ時期に補助金を受けるのは難しく、補助金を交付する時期が変わってくる。

(委員長)

その他の企業支援についてはどうか。

(事務局)

工場等を新設した場合に一定の面積の緑地を造らなければならない規制があるが、企業進出した場合、緑地の面積率を緩和する優遇制度がある。

(委員)

今年度の企業誘致の予定はあるか。もしあれば、何社あるのか。

(事務局)

年度ごとの企業誘致数は把握できていないが、現時点で16社の誘致に成功し、既に11社が操業開始している。11社のうち、4社が市外から本市に本社移転し、進捗率は3つの区域（宇治・白浜・鹿伏兎）で7割を超えている。

(委員)

今後、企業の進出があれば、それに伴い人材を募集することもあると思うので、その際はハローワークをご案内いただきたい。

(事務局)

企業誘致を進める中で、ハローワークの協力もいただきながら、市民の新規雇用が増えてきているので、これまで通り連携していきたい。

(市長)

以前は企業誘致があまりできていなかったが、宇治・白浜・鹿伏兎の3地区の約21万平米を企業誘致エリアにして規制緩和してきた。これまでに300弱の企業からの問い合わせもある。昨年12月に策定した新しい都市計画マスタープランには、4か所の企業誘致エリアを追加した。積極的に企業誘致をすることで、雇用を創出したいので、今後ともハローワークの協力をいただきたい。

(委員)

企業誘致は人口の増加につながり、人口が増えることによって子どもの出生数も上がり、市内の雇用が潤うことになる。企業誘致は、特に力を入れて頑張っていたきたい。

天王川公園にスターバックスが出店するという件について、西尾張中央道沿いにあるスターバックスに夜 10 時過ぎに行ったら、車が入れないほど多くの若者が集まっていてびっくりした。天王川公園にスターバックスができると聞いて、若者が間違いなく来るという実感が湧いている。若者が集まる、人で潤うまちづくりが大切だと思うので、なかなかいい着眼点を持った計画だと思っている。是非、この計画が成功するように労働界からも多いに支援したいと思う。

(市長公室長)

天王川公園にスターバックスが出店するという件について、従来の商業形態である喫茶店の出店では他と競合するため、違う業態・質で勝負する必要があるということで出店しようということになったのではと考えられる。委員がおっしゃられたように、若い世代を含めた全世代の居場所は大事であり、従来の枠組みではない取組になっていくのではないかと考えている。

(市長)

愛知県で3番目の都市公園内のスターバックスの出店ということで、大変うれしかった。県内1番目が名城公園(名古屋市)、2番目が鞍ヶ池公園(豊田市)で、スターバックスが出店してから、全く別物の公園になった。3番目に天王川公園を選んでもらった。商売だから可能性がなければ、投資はしない。要するに、津島の価値が認められた、可能性があるということではないかと思っている。津島を変える第一弾が天王川公園のスターバックスに象徴できる形になれば、停滞していた津島が生まれ変わるのではないかと考えている。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

事務局より説明(資料3・4)

(戦略3・支えあい、安心して暮らせる地域をつくる等)

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

自主防災活動推進事業について、各小学校区の自主防災会に市から防災訓練の協力要請が毎年度あったが、ここ2~3年、コロナの影響で大勢の人を集めて防災訓

練をすることが難しい状況であり、開催できていない。今年度は、今のところ行う予定で準備が進んでいる。コロナ禍でも感染しないように対応しながら、防災対策をしないとイケないと思っているところである。

資料4の2ページの「あそぼうさい まなぼうさい事業」について、防災津島の会が市から委託を受けて、自助・共助防災学習センターでの防災教室などの事業の計画を立てている。そういう事業の周知に際して、市広報紙や市ホームページで募集しているが、なかなか人が集まらない。また、市民の防災意識を高めるにはどうしたらいいかということが課題と感じている。

防災に関する勉強会の防災リーダー養成講座では、年配の受講者が多いため、災害時に十分な防災活動ができる若い世代を取り込むにはどうしたらいいのかも課題である。

(事務局)

委員が言われたことは、従来からあった課題だと思う。まずは各家庭で、ハザードマップやマイタイムラインを活用して、防災の基本的な知識は何か、どこに逃げたらよいか、時系列でどう動いたらよいか等を毎月第3日曜日の「家庭防災の日」によく話し合い、それが地域、校区の防災活動につなげていただきたいところであるが、特に若い世代への啓発・参加が難しい。また、小中学校において、例えばVRを活用して水害や地震の疑似体験ができるようにする等、子どもの時から防災意識を高める取組が必要になってくると思う。資料に掲載した事業のように、国の交付金を取りながら防災意識を高めていく取組が必要であると考えている。

(委員)

資料3の7ページの市民活動団体人材育成講座事業について、市民活動団体の意味が非常に曖昧で、どういうことを目標にして、どういう活動をする団体なのか全く定義されていないので、こういう書き方でいいのかと思うが、いかがか。

(事務局)

委員が言われるように、市民活動団体の活動内容がわかりづらいと思うので、具体的に表現したいと思う。

市民活動団体は、地縁的な町内会や、防災津島の会のように地域に限らず幅広く自分たちの目的・理念を持って活動しているNPO法人など様々あり、市民協働課では市民活動団体を幅広く捉えている。市民活動団体が困っている問題を解決する場を設けたり、あるいは上手く情報発信できるSNSの活用講座を開くなど、市民活動団体が悩んでいる課題をテーマにして、人材育成講座を開催している。

(委員)

そのような説明になるかと思うが、資料だけの情報だと、市民活動団体を知らない人にとっては、市民活動団体の解釈が人それぞれになってしまうと思うが。

(委員長)

市民活動団体と言えば、NPO 法人やボランティア団体というイメージだが、町内会やコミュニティも含まれるのか。

(事務局)

町内会やコミュニティも含まれていると思う。資料からなかなか読み取りにくいので、担当課に確認の上、もう少しわかりやすい表現にする。

(委員)

資料3の3ページの地域の居場所づくり事業について、縁側カフェ等の市内における交流の場の創設と書いてあるが、具体的にどのようなところがあるのか。

(事務局)

平成30年3月に、縁側カフェの「えん」が又吉町にオープンした。お茶を飲みながらのんびりしたり、スペースを借りて趣味の作品展示、会議、講座、イベントの開催をしたりして、多様な世代が気軽に集い、新たな縁（えん）がつながることを目指している場所である。

(委員長)

全体を通して、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

資料4の17ページの小中学校・保育所・幼稚園・認定こども園の給食費の完全無償化は非常にいいことだと思う。19ページの全小中学校の照明のLED化の関連で、防災の観点から考えると、小中学生よりも保育所・幼稚園・認定こども園にいる子どもたちの方が、地震・火災等が起きた時に逃げ遅れる可能性がより大きいと思うので、小中学校も大切だが、市で運営している保育所・幼稚園・認定こども園等の建物・設備の耐震化の方が重要だと思う。私が知っている限り、相当古い建物、相当傷んでいるトイレ等があったと記憶していて、保育所・幼稚園・認定こども園の整備に関して、津島は遅れているのではと思う。小さな子どもを持った保護者からもそのような意見が私のところによく入って来る。一市民の意見として伝えたい。防災に関する見直し等の機会があれば、市民の声を反映してほしいと思う。

(委員)

資料4の18ページに関連して、避難所となる体育館には多くの市民が避難するので、体育館の耐震化等をお願いしたい。また、近年、大雨による水害が多いが、北小学校区では大雨が降ると床上浸水する家があり、これは市の下水ポンプの影響だと聞いたことがある。県の下水道もあると思うが、県の下水道には流さないのか。

内水氾濫等になると、大勢が被害に遭うので、できれば日光川への放水量を増すべきではと思う。

(委員長)

市ができることと市民ができることがあると思うが、とりあえず市ができることについてお尋ねしたい。

(副市長)

まず下水について、県の流域下水道と市単独の公共下水道の2つの下水処理がある。県の流域下水道は、雨水が一切入らないタイプになっている。市の公共下水道は、古いタイプで、汚水と雨水を併せて下水処理場で処理して川に流している。従って、北小学校区は市の公共下水道になっているので、雨水も併せて下水道に入って日光川に流す形になっている。昔はちょっとした雨でも水浸しになっていたが、公共下水道ができてから、大雨になった時に公共下水道の中に雨水が入るので、随分改善されたかと思っている。最近では、計画の想定を超えるような、局地的に降るゲリラ豪雨などが降った時は、一時的に道路等が冠水してしまうが、ある程度の時間が経つと水が徐々に引いていくような状況が最近の傾向となっている。引き続き、そのような状況にならないよう排水・雨水対策を実施していくのでご理解いただきたい。

また、保育所・幼稚園・認定こども園の耐震化等について、施設の改修等には莫大な金額がかかる。優先的などころから進めており、先ほど言われた体育館等は市の避難所になっているので優先的に改修していく。市立の共存園保育所と新開こども園については、今年度新たにトイレ・手洗い等の改修を進める。予算の範囲内で順次改修等をしているのでご理解いただきたい。

(委員長)

最後に私から話させていただく。1点目は、本委員会は第2期総合戦略の評価の場であるが、委員の意見等を伺うと、これまでの取組等に対して概ね好意的な意見が多かったと思う。プログラミング教育や企業誘致など、是非とも頑張っていたきたいという前向きな発言を多数いただけたと思う。

2点目は、プログラミング教育やスターバックスの出店など、津島市が変わり始めているなど率直な感想・印象である。こういったことをいかに発信していくのかというのが非常に重要であり、市内で共有するのはもちろん、市外に対しても戦略的に変わり始めていることを発信していく、ということをして是非検討していただきたい。幸い津島市はシティプロモーションに力を入れているので、そのあたりも絡めて頑張っていたきたい。

3点目は、防災に関する意見があったが、引き続き、進めるべき取組は進めていただきたい。

それでは、質問等も尽きたようなので、議題「第2期津島市まち・ひと・しごと

創生総合戦略の進捗状況について」は終了する。最後に市長から一言お願いしたい。

(市長)

意見等いただき、ありがとうございました。この数十年間、津島のまちづくりが停滞していたのは事実だと思う。まちづくりはあの犬山でも20年くらいかかった。時間はかかるが、しっかりとまちづくりをしていきたい。

先日、名古屋と津島の玄関構想について発表してほしいという依頼があり、私が津島のまちづくりについて発表することとなった。それぞれの地域でまちづくりは異なるが、こういった場などで津島の玄関構想等を積極的に発信することにより、リニア中央新幹線が開通するときには、地域全体が変わっていくと思う。スターバックスの出店を第一弾として、一つ一つ目に見える形で広く発信していきたい。そのためには、地域の皆様のお力添えをお願いしたい。

(委員長)

市長から話があったように、地方創生に関しては、行政でやるべきことはあるが、それ以外については、地元の団体や企業の方、活躍されている方のお力添えが必要なので、コロナ禍で困難な状況が続いているが、引き続き、前を向いて津島市の今後の発展のためにご尽力をお願いしたい。

(事務局)

様々な意見をいただき、ありがとうございました。

事務局から1点お知らせで、先ほどの議題の中で、地方創生推進交付金事業を国に申請中で、採択された場合は、来年度以降の委員会で評価検証が必要になりますので、その際はよろしくをお願いしたい。

本日いただいた意見をそれぞれの課にフィードバックしながら、今後も戦略的にまちづくりを推進していくので、今後ともよろしくをお願いしたい。

閉会